

授業科目名	情報社会論 I	選 択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目／教科に関する科目（情報）					
サブタイトル	情報収集・利用・伝播・秘匿・保存・廃棄の本質	担当者	吉田 一雄			
講義概要	<p>【概要】経済や軍事等にかかわる情報を上手く利用した者が歴史的には常に優位に立ってきたという意味では、いつの時代もその技術の先端性に着目すれば情報社会であるといえる。本講義では、IT 技術革新後に限定せずに、情報というものがどのように機能してきたかを歴史的トピックと将来展望とを取り上げて、考察する。</p> <p>【到達目標】 無闇に恐れたり、疑心暗鬼に陥ることなく、情報社会の中で情報を取り扱うための手法と哲学を身につけることが目標である。</p>					
履修条件	大学の PC の ID を利用可能としておくこと。 (また、2 年次生の希望者にも履修を認める。)					
教科書・参考書	<p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書】 なし（随時紹介する）</p>					
授業回数	内容					
1	情報社会とは何か？					
2	情報のライフサイクル					
3	秘匿（1）暗号論と割符					
4	伝播（1）物理的手段：伝書鳩、狼煙とマラソン					
5	秘匿（2）戦時暗号と符牒（「ニイタカヤマノボレ」と「山／川」）					
6	伝播（2）電信（モールス信号）、無線電信と放送					
7	利用（1）手帳とポストイット					
8	保存（1）独占：焚書、修道院、正倉院					
9	伝播（3）放送と通信、および広告					
10	利用（2）マインドマップとは何か？					
11	収集（1）トロイの木馬、ウイルス、ハッカーとクラッカー					
12	収集（2）図書館とオンラインデータベース					
13	保存（2）セキュリティ対策と情報共有					
14	ICT 技術の進展と将来					
15	まとめと復習					
評価方法	期末試験のみを評価対象とする。（希望者にはレポートに代えて差支えないが、第一回授業で申し出た者に限る）					
評価基準	情報のライフサイクルごとに必要な取扱い技術について、十分理解し日常的に利用できる水準を「A」、場合により利用できる水準を「B」、一般的理解の水準を「C」、ライフサイクルについての理解ができていない水準を「D」、全く無理解を「E」とする。					
その他	内容的に非常に多岐にわたるので、理解のためには出席を要する。また社会環境の変化により、シラバス内容の入れ替えがある。					